

カトリック

# 広島教区報

## 戦争は人間のしわざです

われわれ

〜目標はつねに平和〜

### 2015 平和行事

戦後・被爆七十年を迎える年、八月五日から六日と九日に世界平和記念聖堂とエリザベト音楽大学を会場として平和行事が行われた。駐日バチカン大使、ジョセフ・チエノットウ大司教、米国正義と平和協議会議長オスカー・カントウ大司教、スペイン・ビルバオ教区マリオ・イセタ大司教、韓国済州教区姜禹一司教、日本の十四人の司教など多数の参加があり例年よりも多くのプログラムが行われた。



平和行進 広島市中区の商店街を平和記念公園から世界平和記念聖堂まで行進。カトリック、日本聖公会など約七百名が参加した。

まず、平和行事プレイベントとして、八月二日にアーサー・ビナード氏（詩人、翻訳家）による丸木夫妻の原爆の図を材料にした紙芝居と講演が行われた。五日、六日ともに盛り沢山なプログラムになり、会場も隣接するエリザベト音楽大学を借りるなど例年をしのぐ規模となった。参加者も全国から岡田大司教、高見大司教、前田大司教をはじめ十四人の司教団と司祭、修道者、子どもからお年寄りまで幅広く、キリスト者以外のたくさんの方に

No. 102

カトリック 広島司教区

発行責任者 広報担当 服部大介神父

「点訳版」あります。お問い合わせください。

広島市中区鞆町4-42 広島司教区内 TEL (082) 221-6017

も参加していただいた。

プログラムとしては、五日は例年のように基調講演、八つの分科会、日本聖公会との合同プログラムの原爆死没者供養塔前での平和の祈り、平和行進と続いた。今年は、日本聖公会の全国の主教団やプロテスタントの最高機関であるWCC (World Council of Churches) の副議長も参加するなど、エキシメニカルな集いとなったため、平和祈願ミサの代わりに合同での「平和のための祈りの集い」となった。そのため、例年とは少し趣が異なったものとなった。「平和のための祈りの集い」の後、「青年によるテゼの祈り」、続いて地下聖堂での翌朝まで「平和を願って夜通しの祈り」と祈りに満ちたものとなった。

平和行事・コラム・大阪教会管区典礼研修会 一〜二面

東日本大震災支援 三面

世界平和記念聖堂関連・第六回予備神学校 四面

J・CaRM 五面

地区・海峡からの風・施設・青少年・ひと粒 六〜八面

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

## じゃけえのう

今年には戦後七十周年、そして、被爆九年后にこの大聖堂が献堂された。聖堂の建築中、私は、教会前の鞆町小学校に通っていた。その頃、まだ校庭の隅々に、被爆後の壊れた建物からの錆びついた鉄屑がたくさん散らばっていたので、休み時間になると、磁石を持って鉄屑拾いをした。クラス単位でまとめてそれを売り、クラスの皆が、だれも落ちこぼれる人なく一泊二日の修学旅行に行かれるようにと結構楽しみながら鉄屑を拾ったことを思い出す。そんな時期に建築中だった大聖堂。何が建つのか興味を持って時々覗き見をしに来たのを覚えている。今から思うと社会は資材も不足している大変な時に、この聖堂建設が行われていたのだ。中学生になって塔に登らせて貰った時には、市内を見渡すことができ感動! また市内のどこからでもこの教会の塔が見えたので誇らしくも思っていた。

先日「世界平和記念聖堂一般公開」で、大勢見学者が来られ、パイオルガンのドイッから今日までの旅が語られたのを聞きつつ、

ドイツの人々が困窮の中から廃墟の広島に聖堂建設を願い、ご尽力くださった方々の思いに、あらためて私は涙が出る程の感謝が心に込み上げた。参加者皆でオルガニストの素晴らしい演奏も聴き、興味ある人達はオルガンの鍵盤を触り、音色に魅せられておられた。皆がこの教会に興味を持って来られていることを実感。私は、ドイッから戴いたオルガンが凄く迫力で演奏された時、こんなに長期に渡ってきれいな音色を保ち、神様を賛美しているドイッ生まれのオルガンとそれを贈ってくださったドイッの善意の人々に、大声で「ありがとう!!!」と叫びたい気持ちで一杯だった。

何処の教会献堂も神様からのインスピレーションから始まるので、本当に神様ありがとう!!! これからも世界平和を真剣に祈る教会であり続けたいと切望! そして、私達も世界中の苦しんでいる人々のために、償いの精神で平和の使者となる教会共同体になれるよう祈り続けたいですね。

援助修道会・Sr.小野島照子



左、ユースプログラムのコーディネーターと司会を担当された松浦司教（名古屋司教区）

三事件についてのお話で、一般市民一万人以上の死者をだした悲惨な事件について流暢な日本語で語り、人の命の大切さについて切々と訴えられた。

分科会は、恒例の被爆証言四つ、福島南相馬の状況、沖縄高江の基地問題、子どもプログラムの紙芝居「夏の花」（原民喜・原作）、そして今回の目玉のひとつの若者向けのユースプログラムを設けた。被爆証言では、広島証言と今年初めて行った長崎の方の証言に加え、英語、韓国語による証言を設け、外国の方にも参加しやすいものとなった。各分科会とも大勢の方が参加され、好評であったが、新しい試みは、

とくに好評だったので、来年以降も続ける方針だ。被爆証言については、近年、被爆者の高齢化が進み、体調などにより証言しにくくなる。あと何年被爆者本人から証言を聞くことができるのかという状況で、大変貴重な機会となっている。ユースプログラムでは、ノートルダム清心高校の生徒による平和アンケートを題材にしたディスカッションが活発に行われ、松浦悟郎司教にはプログラムが始まる前に生徒を指導していただいた。

六日は、原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ、その後の米国際正義と平和協議会代表のオスカー・カン トウ司教とゲルニカのあるスペイン・ビルバオ教区マリオ・イセタ司教からのピースメッセージ、広島城コースと比治山コースの二つのピースウォーク、ノートルダム清心高校の生徒による聖堂案内と続いた。

夕方には、十二回目となるエリザベト音楽大学卒業生を中心としたフォーレのレクイエムコンサートが開かれた。



カトリックと日本聖公会合同プログラム「平和のための祈りの集い」  
左から日本聖公会主教団、カトリック司教団

九日は、主日にあたるため、主日ミサの中で、長崎の原爆犠牲者のための祈りをささげた。また九日から、広島や山口からの参加者により恒例となったバスによる長崎平和行事の松明行列と平和祈願ミサ参加、引き続きの平戸・生月巡礼を行った。長崎でも今年は、大分、東京など他教区からの参加が多く、盛大であった。（平和行事実行委員会 栗栖 徹）



右、日本カトリック典礼委員会委員長の梅村司教（横浜教区）

大阪教会管区典礼研修会  
岡山教会

九月二十三日爽やかな秋晴れの日、岡山教会で日本カトリック典礼委員会主催の大阪教会管区典礼研修会が開催されました。「典礼刷新—これまでとこれから」をテーマに、典礼委員会の委員四名が講師として話をしてくださいました。参加者は名古屋教区、大阪教区、高松教区、遠くからは長崎教区、札幌教区の参加者も含めて約二百七十名でした。

人々とその思い—いま私たちに問いかけるもの—というテーマのもと、典礼刷新と信徒の典礼参加促進などを歴史的な流れに沿って話してくださいました。

最初に典礼委員会委員長の梅村司教の挨拶があり、第二バチカン公会議が当時の典礼運動をもとにして開催されたこと、そのために典礼憲章が最初に発布されたこと、会議のキーワードは典礼への行動的参加だったこと、加えて現在進行中のミサ典礼書改定の経緯なども話してくださいました。

午後からは神言修道会司祭の市瀬英昭師が「新しい福音宣教における典礼の意義—『行動的参加』の観点から—というテーマで、典礼祭儀の意味と典礼祭儀への行動的参加について話してくださいました。

三人目はフランシスコ会司祭の南雲正晴師が「神への賛美としての典礼—典礼における『歌うこと』の意義」というテーマ

で、典礼における歌うことの意義や典礼聖歌の神学、歌うことの重要性などを、ユーモアを交え分かりやすく話してくださいました。

最後に典礼委員会秘書の宮越俊光氏が、「報告『ミサ典礼書』改定の進捗状況と展望」というテーマで話してくださいました。現在使われている「ミサ典礼書」は暫定版で、バチカンから正式なものを作成するように求められているとま

ず話され、続いてローマミサ典礼書の翻訳の進捗状況を話してくださいました。現在バチカンから認可された「ローマ・ミサ典礼書」の総則は十一月二十九日の待降節第一主日から、司教団の決定により全国のカトリック教会と修道院で一斉に実施されることになって

いることなども話してくださいました。

長時間にわたる研修会でしたが、参加者のほとんどが最後まで残って講師の話

を聞いてくださいました。

(広島教区典礼委員会  
瀧井英昭神父)

### 東日本大震災災害復興支援 「宗教者に期待しています」

さる六月二十九日(月)から七月一日(水)仙台教区内で、日本カトリック司教協議会の東日本大震災仙台教区復興支援主催による第五回全国会議・視察が開催された。各教区から多くの人々の参加があり、広島教区からは、司祭信徒四人が参加した。

今回は、福島県と宮城県の現状、特に福島第一原発近辺の視察に参加することができたが、大熊町、樽葉町、富岡町、双葉町、浪江町などは、今なお除染作業が進んでいない状況だ。また、現地で支援活動をしている方々から復興への取り組みや仮設住宅に避難している方々のケアなどお話を聞くことができた。郡山教会では、福島県双葉郡川



志田篤さん  
NPO法人昭和横丁代表

内村から避難生活をされて仮設住宅の支援をされている志田篤さん(NPO法人昭和横丁代表)のお話を聞いた。震災から四年が経ち、いろいろな支援が打ち切られていく中、現在も支援活動を続けておられる純心聖母会のシスター方の活動を紹介された。この活動は、広島教区内にある小野田老人ホーム施設長の純心聖母会のSr.山崎照代が始められ、広がってきた。志田さんがお話の中で、行政や各組織からの支援が打ち切られていく中、「宗教者に期待しています」と何度も言われたことが印象に残る。



福島県双葉郡大熊町 帰還困難区域 除染作業の様子

### 「福島の支援について」

純心聖母会

小野田老人ホーム施設長

Sr.山崎照代

福島原発事故で、多くの方々がすべてを手放して故郷から避難しなければならなくなったその現状を目の当たりにした時、私たちは一体何をしたらよいのだろうか。何が出来るか。そして彼らは何を求めておられるのか。何を不安と思われているのか。何をどこに誰に送ってあげたらよいか。分からずあせりを抱きながらいろいろと模索していました。

ある時、私ども、純心聖母会内の研修会で、福島のため支援活動をして知られる福岡百子様のことを知り



福島県双葉郡富岡町 帰還困難区域 震災後、4年半たった今も津波の被害がそのま

ました。その後、彼女に連絡し、私たちの思いを話したところ、大変喜んでいただきました。その時から電話やファックスで福島の現状、被害者のことについて情報をいただき、緊急性の高い方々へ優先して物資を送りました。現在は、個人ではなく仮設の代表者に物資を送っています。

支援物資は、小野田老人ホームの利用者、家族、職員、地域の方々、ボランティアなどたくさん協力をいただきました。

また、老人ホームで作ったゴーヤの漬物、梅干し、銀杏、つきたての餅、クリスマスケーキ、お金など。これからもできる限りの支援を続けていきたいと思っています。

Sr.山崎をはじめられた支援活動は、純心聖母会の本部や各支部にも広がり、現在もそれぞれで独自に福島県の仮設住宅や地元グループの支援活動が継続して行われている。

(広島教区災害サポートセンター 三登 昌二)

### 重要文化財 世界平和記念聖堂 市民見学会を開催

市民を対象とした重要文化財・世界平和記念聖堂の見学会が九月六日(日)に開催された。当日は、あいにくの雨天にもかかわらず六十人余の参加があり、広島市民の記念聖堂への関心が徐々に高まっている。

市民向けの見学会は、昨年の十月にはじまり、今回が三回目である。テーマは「パイプオルガンの魅力を語る」で、講演とパイプオルガンの演奏を行った。マリアホールでの講演では、保存活用委員会事務局長の原田神父が教会音楽におけるパイプオルガンの



パイプオルガンの説明を行う、職町教会主任オルガニストの戸沢さん

「記念聖堂のパイプオルガンが演奏できることを大変光栄に思っている。『神よ、平和を与え給え』という祈りの言葉を胸に、平和のために戦っている人々の仲間入りをすることができて幸せです。世界中の教会が、鐘を鳴り響かせ、この永遠の平和への呼びかけに答えてくれますように」と語っている。この「楽器の王様」と云われるパイプ

の歴史や役割を、保存委員会委員の青葉さんが空襲で壊滅状況にあったドイツ・ケルン市から広島

に送られてきた経緯を、オルガン管理者の戸沢さんがパイプオルガンの特徴などを話した。続いて、聖堂でオルガニストの瀬川さんが演奏するパイプオルガンの名曲を聴き、優雅で迫力のある音色を体験した。また、日頃は公開されることのない聖歌隊席に上り、戸沢さんからパイプオルガンの仕組みや操作の説明を受けた。参加者の多くは、次回も見学会に参加したいと話していた。

世界的に有名な音楽家の中で、このパイプオルガンを最初に演奏した人はヴィルヘルム・ケンプ氏だ。一九五四年の献堂三ヶ月後に来堂され、「記念聖堂のパイプオルガン

オルガンを平和の道具として大事に保存活用することは、ケンプさんの祈りに応える私達の大切な務めです。文化財の保存活動は、ただ建造物を保存することに留まらず、キリストの平和を述べ伝える道具として積極的に保存することが求められる。保存活用委員会では、観光資源としての聖堂保存から福音宣教の道具としての聖堂保存を中心テーマとして、二〇一六年度からの耐震事業の着工を目指している。

教区のシンボルであるカテドラル・記念聖堂の保存事業に、ご理解と支援を教区の皆様にお願したい。なお、聖堂保存工事のための献金を左記口座で受け付けている。個人でも、小教区単位でも結構です。皆様のご支援をお願いします。

#### 世界平和記念聖堂募金 郵便振替口座

口座名：カトリック広島司教区  
口座番号：01320-3-109791  
\*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

### 第六回予備神学校 モーセ・イエスの洗礼

九月十九日夕方から開始された第六回予備神学校には、山口、岡山、広島県から、小学生五名、中学生五名、高校生六名が参加した。今回初参加の子どもも、すぐに打ち解けて仲間入りしていた。司祭(四名)リーダー・スタッフ(八名)オブザーバー(二名)が、子どもたちの中で子どもたちとともに、熱のもった作業をした。

初日はアイズブレイキング、続いて神父様の召命のお話があった。「『司祭に私はなりたいな、なれるかな?』という気持ちが大切に、皆一度は考えてみたらよい。司祭への道の選択は、仕事を選ぶのとは違い、ジャンプが必要である。これ乗り越えればあとは、爽やかである。このためには普段から神と繋がっていること、一日の中で祈りの時間を見つけ、手を合わせて他人のために祈る習慣を持つよう心がけるとよい。」「ワークシヨップ①では、「モーセ」の赤ちゃん時代からイスラエルの民を救う役を引き受けるまでを人形・カラー布(川・砂地・炎)・

枝・ロウソク・絵(イスラエルの民が紅海を渡る箇所)を使いながら床に表現している、神の限りない愛とあわれみを知り、「救い主である神は、モーセを呼び出し、力と勇気をお与えになった。その神は、私たちを生きた喜び溢れるところへ導いてくださり、私たちがどこにいても、私たちと共におられる。このことを忘れないようにさせてください」と皆で祈った。その後の夕の祈りは映像を使った素晴らしいものであった。

翌二十日の朝の祈り、朝食を挟んでのワークシヨップ②では、水から救い上げられたモーセのことを思い出しながら、「イエスの洗礼」に取り組んだ。すべての人が洗礼を通して、清いからだと心を保ち、生きて行くことができるように洗礼の意味と喜びを、床絵作りと分かち合いを通して考えていった。イエスが洗礼を受けられた時、イエスが聞かれた御父からの言葉「あなた私の愛する子、私の心にかなうもの」をみんなと一緒に大きな声で唱え、これはイエスを通して今もいつも私たちに言われている言葉であることを毎日の生活の中で思い起こしていこうと呼びかけ

た。最後の作業として、カラフルな布、カラー紐、造花、カラーのついた球、リングなどを使い、洗礼を受け神の子になった喜びを、各自床の上の泉の周りに表現していった。終わりの祈り「\*わたしたちにお手本を示すために洗礼を受けられたイエス様！わたしたちも、イエス様のうちに新しく生まれ、神様と共に生きる毎日をご過ごすことができますように。\*洗礼を受けたい方一人一人に、あなたは私の愛している大切な子です。よと、呼びかけられていることを心に留めて、過ごすことができますように。アーメン。」で、締めくくった。

その後、フィードバックをし、二人の神父様の司式で、主日のミサを感謝のうちにを行い、昼食後解散した。

フィードバックの時書かれたものの中から、一部を掲載しておこう。

「神さま、となりの人の手はあたたかかったよ。私を愛してください。神さま、隣の人を愛してください。神さまどうぞ私もとなりの人、となりの国の人、遠い国の人を愛することが出来ますように。」

「神さま、今回の予備神学

校を通して あなたの声を聞かせてくださりありがとうございます。洗礼の時、あなたはおん子イエス様に言われたようにわたしにも同じ声を聴かせてくださいました。《これはわたしの愛する子、私の心に適う者》と。」

「一日目の自己紹介の時「神のみこころ」と書かれた赤い画用紙を手に取りました。その時に何かあたたかくて、安心をもたらししてくれるものがありました。僕は神のみこころが地に行われるよう祈りをささげます。」

皆様の祈りに支えられて、これからも予備神学校が召命を考へる場となりますようお願いしています。

(幟町教会 内海ひろる)



アイスブレイキングの様子。集まりの初めに、コミュニケーションがとりやすくなるための雰囲気作りを行った。

**J-CaRM 広島便り**  
**J-CaRMの活動、ご存知ですか？**  
 三篠教会 山本愛子

広島教区のJ-CaRM（日本カトリック難民移住移動者委員会）は、年に三回の定例会を開き、おもに地区・グループの活動報告をしています。

地区は、岡山・鳥取、広島東、広島西、山口・島根の四グループです。メンバーは荻

神父様を代表者として、外国人の神父様とシスター、J-CaRMに関心のある外国人

信徒および日本人信徒です。メンバーは現在二十五名ですが、定例会はいつも神父様方が集まることのできる月曜日に開かれるせいもあるため、出席者は毎回十数名といったところ

です。岡山・鳥取地区は荻神父様、リカルド神父様と岡山教会信徒の中村様、広島東地区は、アルナルド神父様とフレ

デリック神父様、広島西地区の幟町教会はヴィタリ神父様とベトナム人の山口トウイ様

と小松様、山口・島根地区はイ・サンウォン神父様とシスター・ジョイと防府教会の藤

本様です。グループは、フィリピン

人、ベトナム人、ブラジル人などのグループがあります。ベトナム人が最近ふえてきて

います。フィリピン人グループの担当はおもに岡山のリカルド神父様、ベトナム人グループの担当はおもにトウアン神父様、英語もフランス語も堪能なフレデリック神父様

は、福山の技能実習生のために、英語で対応されているよう

です。ブラジル人は野中神父様の担当です。

神父様が会議に出席できない時もあり、信徒は仕事などで出席できないことが多いし、シスターも移動や奉仕の役割の変更があり、メンバーの変更がよくあります。しかし、会議には出席できなくても関心をもちつづけて個人的に活動されている人があり、メールだけでも欲しいという方は少なからずおられます。それで、メンバーが二十五人になっていきます。

私ごとで恐縮ですが、去年の八月二十日の広島土砂災害についてですが、家の五十メートル手前で土砂が止まり、我が家はなんとか大丈夫でしたが、猫を抱えて教会に避難させていただきました。援助修道会のシスターによる手作りのごちそうを毎日いただき、まる二か月間、家に



広島カトリック会館での定例会の様子

水と電気と電話が復旧して十月二十日に勧告が解除されるまで、夫と二人と猫一匹とで、難民移住移動者になりました。避難してすぐ、猪口神父様が来られ、何か困ったことはないかと尋ねられ、とっさに「インターネットができないんです。」と申しました。もうすぐJ-CaRMの定例会なので、わたしがメンバーの方たちにご連絡しないといけないのでした。すぐ、広島教区の三登様が来られ、わたしのパソコンも世界とつなげてくださいました。これらの体験を通して神様は必要な時に必要な配慮をされることがわかり、これからも安心して生きていけます。最後になりますが、皆様のJ-CaRMへの温かご支援とご協力に感謝します。

地区便り

山口島根地区

\*地区養成

八月三十一日(月)に、「司祭・修道者研修会」が菅原神父(イエズス会)を講師に。また、九月二十一日(月・祝日)には、具神父(イエズス会)を講師に、「典礼研修会」が山口天使幼稚園二階ホールで行われた。

「司祭・修道者研修会」には、教区内の十修道会から教区外のシスターを含めて三十三名、イエズス会司祭十一名、教区司祭他信徒十九名が参加し、ユーモアを交えた菅原神父の「奉獻生活の年」にちなんだお話を耳を傾けた。「典礼研修会」では、十一月二十九日(日)から実施される『新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所』について、各小教区の典礼担当者を中心に司祭・シスター・信徒百二十名が、具神父のお話を伺ったあと、分かち合いと質疑応答でミサの流



クワイ 正護 神父

れを学んだ。

十一月十日(火)、地区センターにて十時から「地区信者養成委員会」を開催する予定。

\*地区宣教司牧評議会

二〇一六年一月十日(日)、山口カトリックセンターにて十三時から「地区宣教司牧評議会」を開催する予定。

岡山鳥取地区

\*第二回地区宣教司牧評議会

十月十一日、津山教会にて開催。議事に加えて「イエス・キリスト、父のいくしみのみ顔」冊子をテキストに、「いつくしみの特別聖年」を学んだ。

\*ゆかたデイ

ユニティ(U-CARM岡山鳥取)は八月十五日、岡山教会被昇天祭に合わせて恒例の「ゆかたデイ」を催した。今年は倉敷、米子、

高松から約八十名のベトナム青年が参加。夕方の聖母行列にはゆかたを着た外国籍の青年も加わり、ロザリオを三方国語で祈った。夜の納涼会ではベトナム料理と歌と踊り、インドネシアの伝統楽器アングルの演奏など国際色豊かに交流。ベトナム語ミサに集う留学生や技能実習生に働きかけ、トウアン神父とロイ神学生の協力のもとに会合を重ね、教会共同体の一員として祈りと活動を共にすることができた。



国際色豊かな「ゆかたデイ」

\*米子教会八十周年&境港教会五十周年記念ミサと講演会のお知らせ  
日時：十一月三日(火祝)

海峡からの風 38

下関労働教育センターだより

劇的ビフォア・アフターに向けて

四十年の歳月はドイツの魂のこもった頑丈な建物にも着実に劣化をもたらしており、今後の更なる広がりをもった働きを求めするために、この度下関労働教育センターは大規模改修工事に取りかかりました。水周りと内装・外装を一新する訳で、とりあえず十月から約半年閉館し、細江教会近くの貸店舗を仮事務所として生きながらえます。永年積みも積もった「モノ」をいかに処分するかが最大の課題でした。多くの書籍は山口市阿東町で「行き場を失った書籍を収集して、廃校になった校舎を活用して人々が集まる場を構築し」ておられる阿東文庫に引き取って頂き、美味しい・楽しい時間を演出してくれた食堂の椅子と机の約半分を長府カトリック教会が再利用して下さり、紙・金属等は仲間間で廃品回収をしておられる団体が何度も何度も取りに来て下さり、しかも得られる補助金等を関門福島保養プロジェクトの資金にする仕組み

をつくって下さったので、純然たる廃棄物は想像を遙かに下回りました。また、林神父の巣窟、否、居住スペースの引越しも含めて、市内、県内、そして北九州から信徒がボランティアで次々に手伝いに来て下さり、特にシスター山本「親分」の号令二下馳せ参じてくれた広島若い衆たちの肉体労働のおかげで、一部を除いて(どこかは想像にお任せします)引越しは滞り無く執り行われましたことを報告させて頂きます。皆さまに支えられたセンターということを改めて感じ入り、心より感謝しております。

山口四区に存在する下関労働教育センターは、この時期、気軽に集まり、活動する「場」としての役割を担えないことが心苦しいのですが、春の訪れと共に一段と使い勝手の良い、快適な「場」を提供し、センターの「働き」を存分に発揮できるよう更に準備を続けたいと思います。

しかし、皆さま、もう一度引越しが待っております。今一度の力添えをその節は何卒よろしくお願い致します。(下関労働教育センターを支える会 大城研司)



広島地区「家族大会」ポスター  
午前、子どもたちによる教会ごとのパフォーマンスが、午後は、レクレーションや分かち合いが行われる予定。

会場：米子教会

十時 記念ミサ

十二時半 祝賀会

十四時 講演会

講師：晴佐久昌英神父

(多摩教会司祭・東京教区)

広島地区

\*「信徒のための」『靈操』

セミナー

第三回十月二十四日(土)

第四回一月二十三日(土)

第五回八月 未定

指導：塩谷恵策神父 (イエズス会・西日本霊性

センター代表)

場所：観音町教会

時間：十時～十六時

\*「広島地区『家族大会』」

開催

日時：十一月十五日(日)

十時～十六時三十分

会場：祇園教会

テーマ：「十信仰～やっぱ

り家庭から」

対象者：すべての信者

※参加ご希望のかたは各教

会の受付にお尋ねくだ

さい。詳細は案内文を！

\*「広島地区女性連合

高松・小豆島巡礼」

日時：十一月十八日(水)

十九日(木)

\*「聖体授与の臨時の奉仕

者」任命式

日時：十一月二十九日(日)

九時三十分

場所：世界平和記念聖堂(幟

町教会)

伯雲ブロック

\*「典礼研究会

伯雲ブロックでは、九月

十三日(日)のミサに引き

続き「典礼」についての研

修会が、イエズス会のフイ



フィルマンシャー神父

ルマンシャー神父様のご指  
導のもと松江教会を会場と  
して開催された。

指導はまず歌による深い  
祈りへの導きで始まり、典  
礼での「動作と姿勢」の一  
動一挙主への賛美であるこ  
とを学んだ。

昼食後は、また動作をつ  
けての祈りで再開、参加者  
はこの祈り方にも深い感銘  
を覚えた。

指導司祭のきれいなお声  
と言葉使いも霊的な助けと  
なり、皆熱心に学ばせてい  
ただいた。伯雲三教会の絆  
とともに主の慈愛に満ちた  
時間を過ごした。

広島教区の施設 (27) シーリーズ 巡回教会めぐり 祇園小教区 可部教会

半世紀以上も前の一九六〇  
年(昭和三十五年)頃、可部  
の地では毎月、ロザリオ会が  
開かれていました。十年ほど  
過ぎた頃には家庭ミサへと変  
わり、他教会からの転入者も  
増えて信徒数は百三十名を超  
え、いよいよ教会建設が具体  
化していききました。そのよう  
な流れの中で、一九七一年(昭  
和四十六年)九月十九日、可  
部教会が誕生しました。場所  
は国道五十四号線沿い、一信  
徒の納屋をお借りして二階建  
てに増築したのが初代の可  
部教会でした。

二十五年が過ぎた一九九六  
年(平成八年)、可部教会は  
現在の場所に移転しました。  
二〇一一年二月六日には、可  
部に隣接する三人出身の武  
将、福者殉教者メルキオール  
熊谷元直を教会の保護聖人と  
していただくことになり、聖  
堂にはBr.ディバイン(イエズ  
ス会)作の木像も安置されま  
した。

川治いの斜面に建つ現可部  
教会は、広く美しい芝生の庭  
を持った教会で、季節ごとに  
様々な果実や野菜が実り、美



祇園小教区 可部教会 (写真：青木さん)

しい花々が咲き誇ります。  
このような教会を支えてい  
るのは、地道に続けられて  
いる信徒の皆さんの奉仕活  
動です。  
可部教会のもう一つの特  
徴は、笑いの絶えない共同  
体であるという点です。教  
会に来て癒されて帰る、こ  
れもこの教会の大きな魅力  
の一つです。  
主日ミサは、原則として  
毎月の奇数日曜日の十五時  
からあり、祇園教会の司祭  
が司式しますが、それ以外  
の主日には信徒による集会  
祭儀が開かれます。なお訪  
問なさる場合は、事前に祇  
園教会(082-874-5198)  
までお問い合わせくださ  
い。

**きぼうの電話**  
苦しい気持ちをお話ください。  
心を聞いて待っています。

082  
221-0628  
月～土 午後1時～4時  
日曜・祝日は休み

青少年の活動



いつも青年活動に多大なご理解とご協力をありがとうございます。

神父さま、信徒の皆様、また多くの青年たちの協力により、「広島教区青年大会」を開催する運びとなりました。青年大会はもともと、二〇〇七年から二〇一一年まで開催されていた青年レベル（十八歳〜自称青年まで）の一大企画です。

二〇一一年以降、様々な理由により開催されてきま

せんでしたが、「あの時の感動をもう一度」「体験してみたことがないので、ぜひ体験したい」「素晴らしい信仰体験だから、絶対にやっただほうがいい」などの声におされて復活させよう、再スタートしようということになりました。

いま日本の教会の中で、自教区で青年レベルの大会が企画され、実際にそれを実現できる教区がいくつあるでしょう。ここ広島教区に、そのような熱い信仰と

行動力のある青年たちがいること、またそんな彼らを支えてくださる神父さま方や信徒の皆様がいることを本当に誇りに思います。

どうかこの青年大会が彼らにとって「からし種」となるようお祈りください。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それはからし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よ

「広島に広げよう」

長束黙想の家・霊性センター

アレックス神父（イエズス会）



長束黙想の家・霊性センターに住んでいるアレックス神父です。私は日々、「広島に広げよう、広島から広げよう、愛の文明、平和の文化、命の輝きを、命の輝き

を」と繰り返しながら散歩をし、「神の内に見いだすまで、心は平和を見いだせない」と言う事実に基づいたとき、私達の心は毎日神の方へ向くようになるだろうと考え、「心の糧、体の糧、智的霊的糧、一人ひとりに、この町の一人ひとりに、信仰と希望と愛、平和と喜び、一人ひとりに、この国の一人ひとりに」と歌

い祈っています。

約二十年間、山口、下関、宇部教会で働いていた

私は、今年の四月からこのセンターで新しいものに挑戦しています。毎月一回の日帰り黙想会、週末のヨガで体と心を整えて沈黙の内

九十二歳の高田さんが聞かせてくださったお話は感動的でした。

七十七年前に建てられた

日本的聖堂の中で、訪れる日本人も外国人も驚きと感動と喜びを表します。地域、教会関係、日本人、外国人も皆、共に出会い、祈り、交わり、知り合っている。非常に貧しい村での給食事業で、幼児・子供達が熱心に食前の祈りを唱えるのを聞き感動した。私は何ができるのだろうか。

「広島教区青年大会2015」

日時：11月7日（土）～8日（日）  
場所：カトリック幟町教会  
対象：青年（高校を卒業した年から）  
費用：4,000円  
問合せ：広島教区青少年情報センター  
締切り：10月30日（金）

（大西勇史助祭）

りも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」（マルコ四、三十〜三十二）



東チモールのイエズス会事業を視察した。二〇〇二年の独立以来、国中のインフラ整備はまだ十分ではない。隣国オーストラリアをはじめ、日本を含む各国が教会（施設）の支援を行っている。非常に貧しい村での給食事業で、幼児・子供達が熱心に食前の祈りを唱えるのを聞き感動した。私は何ができるのだろうか。